

平成 22 年（2010 年）の恵庭岳の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2010 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～3）

2月15日、12月6日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。山頂東側の爆裂火口内でごく弱い噴気が認められました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、噴気及び地熱域に対応した高温域が認められました。

これまでの観測結果と比較して、噴気や火口の状況及び地熱域の分布に大きな変化はありませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

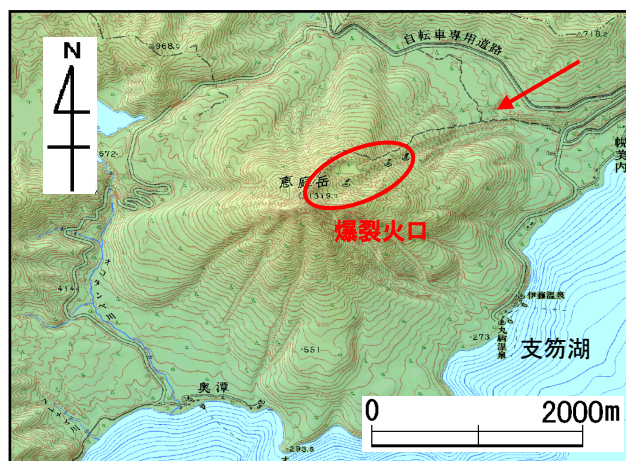


図 1 恵庭岳 周辺図
(矢印は写真及び赤外熱映像撮影方向)



図 2 恵庭岳 東側の爆裂火口の状況
(2月15日 図1の矢印方向上空より撮影 北海道開発局の協力による)

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50000 (地図画像)』を複製しています。(承認番号 平 20 業複、第 647 号)

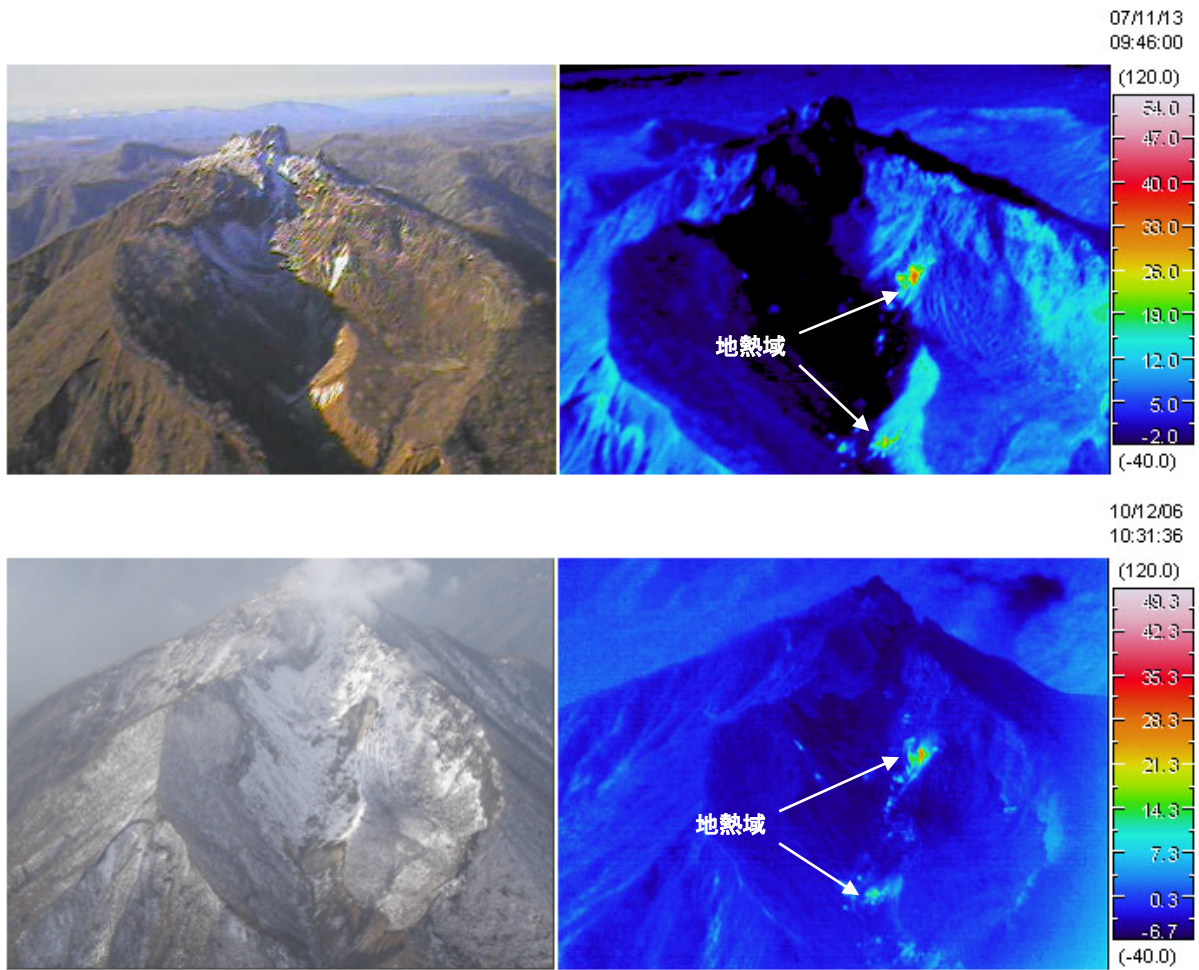


図3 恵庭岳 北東上空（図1の矢印方向）から撮影した赤外熱映像装置¹⁾による山頂東側の爆裂火口の地表面温度分布
（上段：2007年11月13日撮影 下段：2010年12月6日撮影 北海道開発局の協力による）